



2019 3/14 木曜日

発行元：株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪府中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL：06-6105-1904 FAX：06-7635-7861

<http://www.marketpress.jp>

14日大引けの東京市場は小幅続落、日経平均は前日比3円22銭安の2万1287円02銭で引けた。13日のニューヨーク市場でダウがボーイング株の落ち着きから反発して朝寄りには2万1500円台に乗せる場面があったが、前引け後に先物からの売りで値を消した。

個別では石川製作所、サムコ、ポールHD、スペースバリュー、双信電機は値下がり率上位に売られ、村田製作や信越化学も安い。半面、クボテックがストップ高、サニックス、ワイヤレスゲート、IMAGICA、トウキョウベース、アイフイスジャパンが値上がり率上位に買われた。前場は底堅さが見られたものの、前引け後に先物から急速に値を消したことで上値の重さを印象付けられた。中国で発表された1～2月の鉱工業生産指数は前年比5.3%増と17年ぶりに低い伸び。2月の失業率も昨年12月以来の上昇ながら、統計局の見解では旧正月が影響しており、雇用は安定しているとしていることから取り立てて材料にはされていない。

先物から値を消す

### 決算対策売りなども重石か？



日経平均株価

2万1287円02銭

▼3円22銭（前日比）

TOPIX

1588.29

▼3.78（前日比）



**カルナバイオが統騰、新規関節リウマチ薬が中国で特許査定**

カルナバイオサイエンス(4572)が統騰。13日、新規関節リウマチ治療薬「BTK阻害薬」が中国国家知識産権局から特許査定を取得したと発表したことが買い手掛かりになった。BTK阻害薬は炎症の過程で活性化されるマクロファージやB細胞のシグナル伝達を直接阻害する既存薬とは全く異なる作用機序を持ち、19年中の欧州でのCTA申請(臨床試験許認可)と臨床試験開始に向けて前臨床試験を実施している。

**システム情報がストップ高**

**東証1部指定で19年9月期予想を上方修正**

システム情報(3677)がストップ高。同社は13日の取引終了後、19年9月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を107億円から118億円(前期比16.7%増)へ、営業利益を10億5000万円から12億5000万円(同26.4%増)へ、純利益を7億3000万円から8億6000万円(同22.3%増)へ上方修正した。手企業によるシステム構築・更改案件の増加や、官公庁関連大型案件の継続などが寄与。同時に3月20日付で東証2部から1部へ指定変更となり、増配や株主優待拡充も発表している。

**リスクモンスターが4日統伸、自己株式取得枠の設定を発表**

リスクモンスター(3768)が4日統伸。同社は13日の取引終了後、自己株式取得枠の設定を発表した。上限8万7000株(発行済株式総数に対する割合2.25%)または1億円で取得期間は3月14日～4月26日まで。機動的な資本政策を実施することで資本効率の向上を図り、株主への利益還元を実現するため。

### 大日精化が統落、19年3月期純利益を45億円へ下方修正

大日精化工業(4116)が統落。同社は13日の取引終了後、19年3月期の連結業績予想の修正を発表、純利益を75億円から45億円(前期比46.2%減)へ下方修正、売上高は1700億円(同1.5%増)、営業利益は100億円(同23.5%減)で据え置いた。固定資産の譲渡により、帳簿価額を回収可能価額まで減損したことが要因。

## 東証マザーズ上場2日目

サーバーワークス(4434)の初値は公開価格の3.8倍

13日に東証マザーズ市場に新規上場したサーバーワークス(4434)はこの日、公開価格4780円の3.8倍となる1万8000円で初値が生まれた。同社はAmazon Web Services(AWS)のインフラ基盤構築、リセール、保守・運用代行を行う。

## ジャスダック市場に新規上場

エヌ・シー・エヌの初値は公開価格を51.7%上回る

エヌ・シー・エヌ(7057)がこの日、ジャスダック市場に新規上場、公開価格800円を51.7%上回る1214円で初値が生まれた。同社は木造耐震設計並びにその設計に基づく構造部材の販売を行う。



## サムコが急落、電子部品製造装置苦戦で19年7月期予想を下方修正

サムコ(6387)が急落。同社は13日の取引終了後、19年7月期の単体業績予想の修正を発表。売上高を64億円から55億円(前期比0.6%増)へ、営業利益を9億6000万円から5億4000万円(同15.4%減)へ、純利益を6億4000万円から3億5000万円(同14.0%減)へ下方修正した。電子部品メーカーの設備投資意欲が一時的に低下したことにより、半導体電子部品製造装置の受注が伸び悩んでいる。

ワイヤレスGが一時S高、イスラエルの個人向けモバイルセキュリティアプリを発売

ワイヤレスゲート(9419)が急伸、一時ストップ高まで買われた。13日、テラやチェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーと協力して、個人向けモバイルセキュリティアプリ「ZoneAlarm Japan edition」を国内で販売を開始した発表したことで、収益貢献を期待した買いを集めた。チェック・ポイントはイスラエルに本社を置くサイバー・セキュリティ専門メーカーで世界各国の政府機関や企業に対応するソリューションを提供する。家電量販店に先行してこの日からヨドバシカメラ全店舗で発売した。



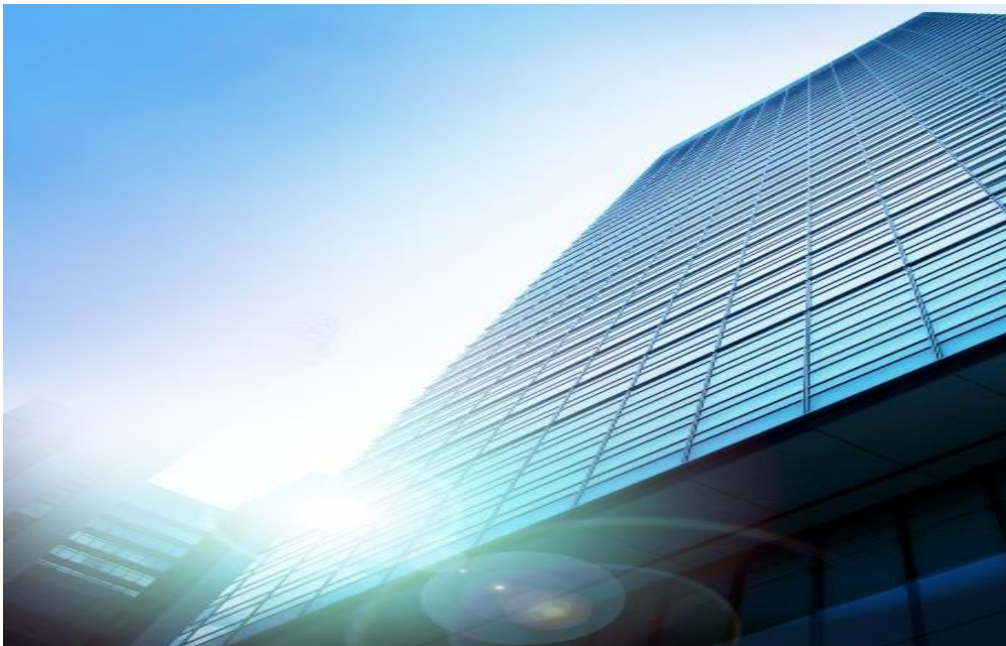
## 日本一Sが急伸

### 「魔界戦記ディスガイア RPG」19日配信を材料視

日本一ソフトウェア(3851)が急伸。13日、iOS／android向けアプリ「魔界戦記ディスガイア RPG」の配信開始日を3月19日にすると発表したことが材料視された。フォワードワークスにて共同開発のタイトルで、「魔界戦記ディスガイア」シリーズの主人公やヒロインが一堂に会し、“最強魔王”を目指すオリジナルストーリーを展開。各コンテンツを開放し好みのプレイを促進する「暗黒議会」や、武器を育成する「アイテム界」、巨大な塔をバトルで駆け登る「魔王の巨塔」など、大好きなキャラクターをとことん育成できる「魔界戦記ディスガイア」ならではのさまざまなコンテンツを搭載している。

## クワザワが急伸、東証1部への指定変更を好感

クワザワ(8104)が急伸。同社は13日の取引終了後、3月20日付で東証2部から1部への指定変更を発表した。TOPIX連動ファンドによる買い需要が期待される。



## オークマが急落、みずほ証券が「買い」から「中立」へ引き下げ

オークマ(6103)が急落。みずほ証券が13日付で投資判断を「買い」から「中立」へ、目標株価を8250円から6000円へ引き下げたことが嫌気された。向こう1-2年業績は足踏みと予想、更なる株価評価向上にはまた新たなカタリストが求められるが、当面は受注の調整及び業績悪化のリスクが高まる方向と懸念され、やや慎重なスタンスへの引き下げが妥当と考えている。

GAテクノが急伸、「RENOSY」好調で19年10月期売上高予想を上方修正

GA technologies(3491)が急伸。13日取引終了後、19年10月期の業績予想を修正、連結業績については、売上高を326億6300万円から366億500万円に引き上げた。連結業績を計上は今期からでは比較はないが前期単独売上高との比較では62%強の大幅増収になる。知名度向上により「RENOSY」の新規会員数予想以上に増え、販売件数が増加した。広告宣伝費や人件費など先行投資を積み増すことで、利益予想は従来計画を据え置いた。

## サンックスが急伸、苫小牧発電所の運転再開を好感

サンックス(4651)が急伸。この日13時に苫小牧発電所の運転を13日から再開したと発表したことが材料視された。「平成30年北海道胆振東部地震」の影響により発電を停止していたが、再稼働に向けて発電設備各所の修繕、蒸気タービン並びに発電機の分解点検・修復等を実施していた。

## Hammeが反落、モバイルアクセサリ不振で19年4月期予想を下方修正

Hamme(3134)が反落。同社は13日の取引終了後、19年4月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を102億1400万円から100億3100万円(前期比7.0%増)へ、営業利益を14億300万円から10億2600万円(同25.6%減)へ、純利益を9億7900万円から7億1800万円(同17.7%減)へ下方修正した。モバイルアクセサリの企画・開発・販売を行うコマース事業において、昨年9月に発売された新型iPhoneシリーズ(XS、XSmax、XR)の販売不振の影響を受けている。

## イーストンが軟調、マイコン急減で19年3月期予想を下方修正

ルネサスイーストン(9995)が軟調。同社は13日の取引終了後、19年3月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を819億円から785億円(前期比3.8%減)へ、営業利益を11億1500万円から7億2000万円(同63.8%減)へ、純利益を8億1500万円から5億8500万円(同53.3%減)へ下方修正した。中貿易摩擦の影響による中国経済の減速等により、産業・自動車分野向けのマイコン等の需要が急減している。

## さいか屋が軟調、19年2月期最終損益を1億4500万円の赤字へ修正

さいか屋(8254)が軟調。同社は13日の取引終了後、19年2月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を197億7000万円から194億円(前期比2.3%減)へ、営業損益を1500万円の黒字から3300万円の赤字(前期1300万円の赤字)へ、最終損益を1億円の赤字から1億4500万円の赤字(同1億2500万円の赤字)へ修正した。継続的なローコストオペレーションの実施による効果的な経費運用に取り組んだものの、売上高減少による販売収益の計画値未達を埋めきれない。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。